

審査の結果の要旨

氏名 呉 延花

本研究は自治体公務員において、仕事の負担度とコントロール度あるいはこれらの組み合わせ、職場の社会的支援、ならびに努力—報酬不均衡状態あるいは仕事の報酬が抑うつと関連するか否かを検討するため、職業性ストレスモデルである **Job Demand-Control model (JDC モデル)** と **Effort-Reward Imbalance model (ERI モデル)** の両方を用いて、職業性ストレスと抑うつとの関連について調べたものであり、下記の結果を得ている。

1. **JDC モデル**において、年齢、職位（管理職か否か）、学歴、喫煙、飲酒、残業時間と運動時間の関連要因を調整した多重ロジスティック分析を行ったところ、男性では仕事の高 **strain**（高負担度かつ低コントロール度）あるいは仕事の負担度の高さ、社会的支援の低さが抑うつと関連し、女性では社会的支援の低さが抑うつと関連することが示された。
2. **ERI モデル**において、上記と同様の関連要因を調整した多重ロジスティック分析を行ったところ、男女ともに **ERI**（努力—報酬の不均衡状態）の高リスクグループあるいは低い報酬が抑うつと関連することが示された。また男女ともに、**ERI モデル**のほうが **JDC モデル**より、抑うつと強く関連することが示された。
3. さらに、仕事の報酬の3つの下位尺度—心理的報酬、職の安定性報酬、金銭・地位報酬をそれぞれ独立変数とした多重ロジスティック分析を行ったところ、男女ともに、仕事の報酬の3つの下位尺度のいずれも（及びその努力との比も）抑うつと関連することが示された。

以上、本論文は、最近大きく変化する公務員の職場環境を背景に、1自治体で働く公務員全員を対象とし、職業性ストレスモデルの **JDC モデル**と **ERI モデル**の両方を用いて、それぞれ異なる側面から職業性ストレスと抑うつとの関係を検討した独創的な研究である。その結果、自治体公務員において、**ERI モデル**のほうが **JDC モデル**より、職業性ストレスと抑うつとの関連をよく予測する可能性ならびに **ERI モデル**の3つの報酬のいずれもが重要であることが示唆されており、この結果は今後の公務員のメンタルヘルス対策にも有用と考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。